

令和 5 年度始業式 校長講話

令和 5 年度が始まりました。皆さんは、今年こそは、こんな年にしたい と、今自分のことばで自分の夢や決意を語るができますか？希望を持って 1 年を過ごしたいですね。

今日は見事に咲いている「桜」、その桜の木を使った「桜染め」については話をしようと思います。桜染めというのは、桜の木を使って白い布を染める染物で、色合いは本当に桜の花と同じ、淡いピンク色になります。それがこのハンカチです。

この桜色は、桜の花びらを使って出すように思うかもしれませんが、実はそうではないんです。桜の木の、あのごつごつした木の皮を使うのだそうです。しかも、この色は 1 年じゅうの、どの季節でもとれるのではなく、桜の花が咲く直前の、ちょうど 3 月の頃のものでなければいけないのだそうです。どうして桜の幹からこの色がでるのか。どうしてその時期のものでなければこの色が出ないのか。これは、桜の木が、まもなく花をさかせようとする時期に、桜の花びらだけでなく、木全体が桜色をしているようなのです。私たちは、桜の花のあのきれいな色を、桜の花びらの色だと感じていますが、あの色は桜の木全体に蓄えられた、桜の木全体の色なのです。花びらの色は、幹の色であり、樹皮の色であり、樹液の色なのです。桜は全身で桜色に色づいて、木全体に蓄えたあの淡い桜色を、花に注ぎ込んでいるのです。私たちは 1 週間ほどしかあの美しい花を見ることができません。桜の木は、その 1 週間のために、1 年かけてコツコツと桜の色を貯めてきているのです。そして、春の暖かな陽気を感じた時に、今が一機に出すときだ と、蓄えたものを出してきれいな花を咲かせるのです。これは皆さんの夢の実現、あと 1 年後 2 年後の 3 月の姿と同じですね。

私はこのハンカチを手にしたときに、その手法を知り新たな発見をしました。このように、例えば知らなかったことを知ること、発見して疑問に思うこと、じゃあこれはどうなんだ？とやってみたくなること。そういったことが探究学習にもつながります。学ぶというのは根底に楽しさやわくわくするものがなければ続きません。「なぜ？」と思う疑問と、自分で探究してみよう と思う気持ち、そんなことの積み重ねが「学ぶ」ということであるということ。そして、そういう追及したい思いをぜひ皆さんの生き方に活かしてほしいと思うところです。

もう一つ別の角度から。もうこんな年の大人になって、宮沢賢治のすごさを改めて感じています。詩人・童話作家 として文系のイメージが強い宮沢賢治ですが、彼は科学・宇宙などにも精通する理系の人であった という見方もあります。賢治のすごいところは、自分が得たり、考えたりした知識を研究論文などの形にするのではなく、「心象スケッチ」や「童話」などの文学で表現したことです。芸術教員の私はやけに表現するという面において共感するところがあります。みなさんの探究学習はなんのために行っているのでしょうか？パワポにまとめることが目的ですか？授業だからやるのですか？問いを見つけ問いと向き合っ、その問をどうつなげていくか、本来の原点に戻って、皆さんがどう生きていくかに向き合える、ぜひ充実した探究学習を行ってほしいと、今年度も期待します。